

新中区配水池新設工事説明会 議事録

日 時 令和6年6月11日(火)

15時00分より(1回目) 18時00分より(2回目)

場 所 倶知安町役場 2階会議室

参加者 1回目 17名 2回目 4名

1 開 会 水道課長

2 挨拶 町 長

3 事業の説明 水道課長、水道課主幹、観光商工課主幹

新中和配水池新設工事の代替案について、内容としましては配水池の建屋を90時計回りに展開し、グレンデ側に寄せたものになります。

初めにとしまして、まずはお詫びでございます。

新中和配水池の工事説明会の開催が遅くなりましたことを深くおわび申し上げます。

また今後このようなことがないように十分注意してまいります。

新中区配水池新設工事について、要望書や、これまでの工事説明会等における御意見を踏まえまして、次のとおり、代替案を検討いたしました。

この代替案によりまして、景観に配慮した地域にふさわしい配水池の整備を、水の供給に支障がないようにできる限り早期に進めてまいりますので、御理解御協力を賜りたく存じます。

続きまして概要になります。

まず項目1、位置につきまして、代替案として90度時計回りに展開し、現在は北西側に寄せることで、道路側から敷地の奥までの視界をよくするとともに、水槽の有効水深を2.5メートルから3メートルにすることにより、50センチ深くし配水池の面積を縮小いたします。18%程度の面積縮小になります。

対応する資料1、それから資料2とありますが、これらにつきましては後ほど担当より説明させていただきます。

同じように、以降の項目でも、下に括弧書きで示しています対応する資料につきましては、後ほど担当より説明させていただきます。

続きまして項目2、工期につきまして、追加設計期間として約4か月を要しますので、工事完成時期は、当初案の令和8年12月から令和9年8月にずれ込みます。

なお参考として配水池の完成後には、第2駐車場において、現在の駐車台数を確保すべく、立体駐車場整備の準備を進めております。

次にページをめくって2ページに移ります。

項目 3、事業費につきまして、追加設計費は、2500 万円程度で、この財源は水道会計で補う予定です。

さらに、当初の設計が 90 を展開する代替にも活用されることとなるため、当初の設計等の補助金等を返済する必要はないと考えられます。

このことにつきまして、今後確認してまいります。

工事費については次の施工内容を想定し、増額が見込まれます。

配水地の上を活用するため、現在の天然芝からコンクリートとした場合に、2100 万円程度の追加を見込みます。

この金額は、現段階でのコンサル聞き取り価格です。

背景としまして、配水地の耐用年数の確保や、貯水槽内の水の安全性等を考慮すると、上に車を駐車することはできませんが、子供の遊び場など人が活用するために、現在の天然芝からコンクリートにすることを検討しております。

なおコンクリート舗装が補助対象となるかは、今後確認してまいります。

それから、外壁を当初の磁器タイルから木張りではぼ着色塗装を施したものに変更した場合、900 万円程度の追加を見込みます。

この金額は、現段階でのコンサル聞き取り価格です。

背景としましては、建物について形状自体を見直すことは困難ですが、外観については、現在の全面自治体より下半分の位置を磁器タイルで上 3 分の 2 程度を木張りとして、景観に配慮した仕上げにすることを検討しております。

続きまして項目 4、水道供給への影響につきまして、令和 8 年 12 月には、ひらふスキー場エリアの 1 日最大給水量、1 日最大需要量でもありますが、6085 m³に上ると見込まれます。

そこで現在、まずは令和 7 年 1 月に新比羅夫浄水場を新設し、給水能力を現在の 1 日当たり 3885 m³から 5445 m³へ引き上げるべく、既に整備を進めております。

さらに、令和 8 年 12 月に、新中和配水池を完成させることにより、1 日当たり 6625 m³に引上げていく計画としております。

代替案により整備を進めるとした場合、先ほど申しあげました項目 2、工期で示した工期となりまして、令和 8 年 12 月の最大給水量、1 日当たり 6085 m³に対して、給水能力は、5445 m³となり 640 m³が不足すると見込まれます。

次に 3 ページに移ります。

項目 5、不足給水量の確保につきまして、

こちらは、今お伝えした項目 4、水量不足に対する対策でございます。

最大給水量の不足は現在の中区配水池で発生すると見込まれます。

中区配水池は、現在、低区配水池から 1 時間当たり 100 m³のポンプと、40 m³のポンプを用いて、1 時間当たり 140 m³の送水を行っております。

低区配水池には 100 m³のポンプを予備としてもう 1 台設置していることから、低区配水

池の前の場所にディーゼル発電機、規格は 100KVA、大きさにして軽乗用車 1 台程度の大きさのものを想定しておりますが、これを設置し、1 時間当たり 100 m³のポンプを 2 台同時に稼働し、1 時間当たりの合計送水能力を計 200 m³まで引き上げることで、不足量に対応可能であると考えております。

現在の低区の電気設備では、1 時間当たり 100 m³のポンプを 2 台同時に稼働させるパワーがないため、発電機が必要となります。

この発電機を使うことにより、レンタル料や作業量として、550 万円程度の費用が見込まれます。

以上が代替案の内容になりまして、水道施設についての概要は以上になりますが、駐車場につきましても、参考として触れさせていただきます。

新中区配水池の整備に伴う駐車可能台数減への対応について、としまして、新中区配水池の整備に伴い、現状約 250 台駐車可能な、ひらふスキー場第 2 駐車場の駐車可能台数が、80 台程度減少します。

その対策として、一連のひらふスキー場駐車場再整備の中で、第 2 駐車場の立体化により、250 台以上の駐車スペースの確保を検討しておりまして、現在は、土地利用調整に関する関係機関協議を進めております。

また、駐車場再整備までの応急的な対策として、サンスポーツランド臨時駐車場のイベント利用の休止による駐車スペース回復や、従業員シャトルバス運行による従業員利用の低減を行うか、代替地についても協議検討していきます。

以上で概要の説明とさせていただきます。

つづきまして、新中区配水池の施設配置の代替案につきましてもご説明させていただきます。

お手元の資料の右上の資料 1 と書いてある A3 横長の図面と次のページの資料 2 と書いてあります図面を見比べながらご覧いただければと思います。

資料 2 の方が前回の説明会でご説明させていただいた現行案の配置で、資料 1 のほうがこの度検討した代替案の配置となります。

資料 1 の代替案についてですが、前回の説明会等でいただいておりますご意見の中で、「スキー場のメイン通りに面して水道施設の建屋があるのではなく、もう少し離れた位置にあると あまり視線にも入らず圧迫感も軽減されるのでないか」というご意見をいただいておりますので、それを検討したのがこの代替案となります。

資料 2 の配水池の建屋の位置をそのまま 90 度時計回りに回転しますと、

配水池の端がトイレのギリギリのところまできてしまい、奥の土地が使えなくなってしまうので、更に検討を重ねまして、配水池の縦横の寸法を 32m×32m だったものを 22.2m×37.4m にしまして、水槽の面積を 18%程度減らし、その分、有効水深を 2.5m から 3.0m にしまして、水を貯める深さを 50cm 深くすることで配水池の容量の 2,110 m³は変わらず、当初予定しておりました赤い線で示されている区画内に収めるようにしております。

更に配水池の水槽を道路側に寄せることにより、図面右側の残された土地の部分でできるだけ多く残すことも検討しまして、資料 2 の現行案より 5.8m 奥の土地が広がっております。

また、図面左側の道路から建屋までの距離ですが、道路から建屋までの距離が 17.5m となっております、現行案に比べ約 6.5m 中側になる配置となっております。

以上が配水池の機能性を保ったまま、配水池の建屋を 90 度回転させ、できるだけゲレンデ側に寄せた配置の代替案となっております。

資料 2 の現行案の説明は割愛させていただきます。

次のページの資料 3 をご覧ください。

新中区配水池建設工事の工程表となります。

上の欄が現行案で建設した場合の工程で、中段の欄が代替案の 90 度回転させた場合の工程となります。

上の現行案の工程としましては、今年の 5 月中に工事を発注しまして、今年の 12 月までに基礎杭の施工を終わらせ、令和 7 年度は躯体工事を終わらせまして、令和 8 年度は外構工事を終わらせ、令和 8 年の 12 月に供用開始する計画としておりました。

この度の代替案の工程ですが、まず追加設計が必要となり、4 カ月を要する見込みです。

工事発注は今年の 10 月中旬から 11 月中旬となりまして、基礎杭の製作に 3 か月を要することになっておりますので、12 月までは 1 カ月程度しかありませんので、杭打ちの工事までは出来ない見込みとなりまして、今年度は杭の工場製作期間となります。

来年の令和 7 年 4 月より杭打ち工事から始まりますが、どうしても令和 8 年 12 月の供用開始には間に合わない工程となり、完成は令和 9 年の 8 月となる見込みです。

一番下の欄は第 2 駐車場立体化の工程表となっております、後程観光課より説明させていただきます。

最後のページの資料 5 をご覧ください。

90 度回転した場合の事業費となっております。

まず上の左側の表が現行案での設計費と工事費となっております。

設計費が 8 千 9 百万円かかっておりまして、工事費が土木工事 11 億 6 千 8 百万円、建築工事が 4 億 8 千 3 百万円、機械、電気設備工事が 11 億 4 千万円、しめて工事費合計が 27 億 9 千 100 万円の見込みです。

右側の表は代替案とした場合の追加費用を算出した表となっております。

まず、追加の設計費が 2 千 500 万円かかる見込みです。

工事の増額としまして見込んでいるものとしましては、配水池の水槽の上を張芝で考えていたのですが、これをコンクリート舗装にした場合の費用を新たに盛り込んでおります。

張芝復旧の費用 2 百万円を減じまして、コンクリート舗装の費用 2 千 300 万円を見込みまして、張芝工との差額 2 千 100 万円を追加しております。

また、建築工事としましては、現行案での建屋の壁は全面磁器タイルを張る設計としてお

りましたが、代替案では、より景観にマッチした風合いになるよう検討しまして、外壁に本物の木材を使うこととしております。

壁の色彩につきましても、国定公園の規制はございますが、その範囲内でより景観にマッチするものを考えております。

その分の壁の磁器タイル張りを木張りにする追加費用ですが、磁器タイルの費用 2 百万円を減じ、木張り施工費 1 千 100 万円を見込みまして、その差額 9 百万円を追加しております。

電気、機械設備については追加費用はありません。

代替案の追加費用の合計としましては、設計費が 2 千 500 万円、工事費が 3 千万円となりまして、合計 5 千 500 万円を見込んでおります。

次に中ほどの表の不足水量の対応費用(発電機レンタル料等)についてですが、

まず、代替案ではどうしても令和 8 年 12 月の完成は厳しく、令和 8 年度シーズンには施設能力を給水量が超えてしまう予測となっており、対応策を検討したところ、低区配水池から中区配水池へ送水している予備のポンプを発電機で運転させることで、送水量を 140 m³/時から 200 m³/時に増量させることができ、費用も最小限でおさえられ、現実的であるとの結論に至りました。この期間を令和 8 年の 12 月中旬からの令和 9 年の 3 月中旬の 3 か月間として想定し、掛かる費用を積みあげたのがこの表になります。

まず発電機のレンタル料が 100 日で 130 万円、発電機の燃料費が 160 万円、水量の監視及び発電機の稼働操作費としまして 220 万円、騒音対策費としまして、発電機の騒音を減少させるため防音シートで囲いまして、発電機の音を出来るだけ外に漏らさない対策を考えておりまして、これにより気にならない音のレベルの 50 デシベル程度まで減少させる予定です。

発電機の稼働時の騒音がカタログでは 60 デシベルとなっております、60 デシベルは例えばと、走行中の自動車の車内、デパートの店内 程度の騒音とされております。

50 デシベルは、家庭用のエアコンの室外機、静かな事務所の中 程度とされております。

この騒音対策費用としまして 10 万円を見込んでおります。

そして除雪費としまして 30 万円を見込んでおります。

しめて 550 万円の費用となりまして、令和 8 年度シーズンの不足水量対策の費用として見込んでおります。

その下の国庫補助金等返還額につきましては、現設計に要した設計費は配置を 90 度回転する場合にも活用されますので、無駄とはなっておらず返還の必要はないと考えておりますので 0 円としております。

そして一番下の欄に新中区配水池を 90 度回転した場合の影響額としまして、設計費、工事費、不足水量の対応費用を合計しまして、6 千とび 50 万円をみこんでおります。

代替案の説明につきましては以上となります。

また、この代替案に伴う追加の設計につきましては、設計期間が 4 カ月必要となっております。

まして、時間的な制約もございますので、今月中に(この6月中)追加設計に着手したいと考えております。

配水池建屋の外観やデザイン等につきましては、追加設計におきまして、引き続き皆様のご意見をお聞きしながら進めていきたいと考えておりますので、何卒この代替案での建設につきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

観光商工課より資料3の第2駐車場立体化工程表と、資料4について説明させていただきます。

それでは資料3に戻りまして、第2駐車場の立体化の検討している検討資料について御説明をさせていただきます。

現在、第2駐車場については、立体化についての検討を始めているというような段階になっておりまして、先ほど水道課のほうからお話ありましたとおり配水池、こちらの完成が令和9年度というところで、それまでの間ですれ同時に駐車場と配水池を一緒に工事をするというのは、クレーンを置いたりとかという都合で、できないということが分かっている状態ですので、配水池が完成した後速やかに駐車場の立体化に着手するというようなことを考えております。

現在既にですね皆さん御存じのとおり、第1駐車場の整備とあわせて第2駐車場も含めてですね、土地利用に関する関係機関協議といったものを進めているところになっております。

こちらがですね協議であったり制度の変更だったりといったものが令和7年度中に終われば、そのあとですね令和8年度に駐車場設計であるとか許認可の整理というようなものを行いまして、そうすると令和9年度、新中区配水池の工事が終わった後にですね速やかに、駐車場の立体化工事に着手できるだろうというようなスケジュール感を検討しているところでございます。

ただですね、様々に関係機関と協議をしている中で、それによってですね駐車場の規模とかもですね変わってくるところもございます。

その規模次第では、工事の施工もですね、ワンシーズンで終わるのか、2シーズンかかるのかどうかというようなところについては現在のところはまだはっきりとしていない状態になっておりまして、それもあって、一部点線で示しているところもございます。

今回ですね新中区配水池の工事している間ですね、冬季の駐車可能台数が減るというようなところもあって、現状工事期間中についても、様々に策を講じなければならないというところがございます。

で、今年度の冬はですね、先ほど水道課の話があったとおり、杭を製作するだけという形なので、実際の第2駐車場のほうに何か手をつけるわけではありませぬので、この冬は第2駐車場の駐車台数を減らないんですけれども、できることならばですね様々な準備をしておいたほうがいいというところがあります。

それです。このシーズンについては、次の冬シーズンについては、この間の冬シーズン、サンスポーツランドの臨時駐車場についてはイベントを利用しておりました。一部駐車ができないスペースもあったということがありましたが次の月シーズンからは、イベント業種休止によって駐車スペースを回復したいというところ。

また従業員のシャトルバスを運行することなどによってですね、従業員による第1駐車場第2駐車場の利用の低減を図りたいというようなところで検討を進めているところでございます。

で、サンスポーツランドの多目的広場につきましては次のページのほうに進めればと思うんですけども、この二つにですね、多目的広場の舗装のほう考えております。

というのは、昨今の気候変動温暖化によりまして、先シーズンについては多目的グラウンド臨時駐車場が12月のもう本当終わりからしか開けることができず、かつ、2月の中旬に非常に暖気が入った際などですね、一時的にも閉鎖しなければならないというような時間も出たりしまして、実際安定的に供用ができていたのが1か月半程度というような状況になってしまっております。

このような状態で、新宿区の配水地の工事が始まって、第2駐車場の台数も減るというようなことになると、エリアの駐車場の供用不安定になってしまうというようなところもございまして。

そこを解消するためにもこの冬からですね、12月のもう本当頭からですね、安定的に供用が可能になるべく、サンスポーツランドのグラウンドの一部をですね舗装することで、シーズンの初めからこのグラウンドづくりに、簡単に進入ができてスタックすることがないようにですね、向上していくところでございます。

それによってサンスポーツランドのグラウンドについては約120台ぐらいですね、最大で停めることができてきますので、それをシーズンの初めからとめられるようにというところ、次ですね、工事を入れて、安定的な駐車台数の確保を目指していくというところ、検討し、考えているところでございます。

以上ですね、第2駐車場の立体化の検討に伴う工程と、この夏のサンスポーツランド倶知安の舗装工事についての説明とさせていただきます。

4 質疑応答

別紙 令和6年6月11日開催 新中区配水池新設工事説明会 質疑応答に掲載

5 閉 会